

■日時：11月27日(水) 13:30～14:30

■会場：第3会場

(熊本城ホール 3F 大会議室 A4)

WS1 老化・動物モデル

座長 鈴 伸也

(熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

山本拓也

(医薬基盤・健康・栄養研究所)

WS1-1 慢性 HIV 感染における腸内細菌叢の変容

石坂 彩^{1,2)}、古賀道子¹⁾、
Parbie Prince Kofi⁴⁾、
Prawisuda Diki¹⁾、千光寺智恵¹⁾、
久保田めぐみ¹⁾、菊地 正³⁾、安達英輔³⁾、
鯉淵智彦³⁾、水谷壮利^{1,2)}、俣野哲朗^{2,4)}、
四柳 宏^{1,3)}

1) 東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 感染症分野

2) 東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター

3) 東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科

4) 国立感染症研究所 エイズ研究センター

WS1-2 HIV 感染における T 細胞老化と DNA メチル化による発現制御

立川(川名)愛¹⁾、細谷(中山)香¹⁾、関 真秀²⁾、
堀内映美²⁾、古賀道子³⁾、四柳 宏^{3,4)}、
吉村幸浩⁵⁾、鈴木 穰²⁾、俣野哲朗¹⁾

1) 国立感染症研究所 エイズ研究センター

2) 東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻生命システム観測分野

3) 東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科

4) 東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野

5) 横浜市立市民病院 感染症内科

WS1-3 機能的治癒を目指した SIV 潜伏感染 cART モデルの構築

高濱正吉¹⁾、升田雄士^{1,3)}、岡村智崇²⁾、
保富康宏²⁾、山本拓也^{1,3,4)}

1) 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 免疫老化プロジェクト

2) 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 霊長類医科学研究センター

3) 大阪大学大学院 薬学研究科 免疫老化制御学分野

4) 熊本大学 ヒトレトロウイルス学共同研究センター

WS1-4 HIV-1 潜伏感染霊長類モデルにおける HIV 複製リザーバーの定量解析とその意義

関 洋平¹⁾、齊藤 暁¹⁾、原田恵嘉²⁾、
村田めぐみ¹⁾、鷺崎彩夏¹⁾、引地優太²⁾、
吉村和久²⁾、石井 洋²⁾、佐藤賢文³⁾、
Islam M Saiful³⁾、大出裕高⁴⁾、岩谷靖雅^{4,5)}、
芳田 剛¹⁾、保富康宏⁶⁾、俣野哲朗²⁾、
三浦智行⁷⁾、明里宏文^{1,7)}

1) 京都大学霊長類研究所

2) 国立感染症研究所エイズ研究センター

3) ヒトレトロウイルス学共同研究センター熊本大学キャンパス

4) 国立病院機構名古屋医療センター・臨床研究センター

5) 名古屋大学大学院医学系研究科

6) 医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

7) 京都大学ウイルス・再生医科学研究所

■日時：11月28日(木) 14:00～15:15

■会場：第3会場

(熊本城ホール 3F 大会議室 A4)

WS2 構造と変異

座長 門出和精

(熊本大学大学院生命科学研究部微生物学分野)

岩谷靖雅

(名古屋医療センター 臨床研究センター 感染・免疫研究部)

WS2-1 HIV-1 カプシド “disorder” 領域の構造機能解析

小谷 治¹⁾、駒 貴明²⁾、宮川 敬³⁾、
梁 明秀³⁾、横山 勝¹⁾、土肥直哉²⁾、
足立昭夫⁴⁾、野間口雅子²⁾、佐藤裕徳¹⁾

1) 国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター

2) 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 微生物病原学分野

3) 横浜市立大学 医学部 微生物学教室

4) 関西医科大学 微生物学講座

WS2-2 HIV-1 core morphology assessment using single virion imaging based on FRET

Anamaria Daniela Sarca¹⁾、
Hirofumi Fukuda¹⁾、
Kotaro Shirakawa¹⁾、
Kazuki Horikawa²⁾、Taisuke Izumi¹⁾、
Akifumi Takaori-Kondo¹⁾

1) Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan

2) Division of Bioimaging, Institute of Health Biosciences, University of Tokushima Graduate School

WS2-3 ヒト抗 HIV-1 蛋白質 APOBEC3G の構造生物学研究—これまでの成果の概況と今後の展望—

河野隆英¹⁾、Reuben Harris¹⁾、相原秀樹¹⁾、
松尾 浩²⁾

1) ミネソタ大学

2) National Institute of Health

WS2-4 抗 HIV-1 因子 APOBEC3H における多型変異 R105G の分子構造への影響

大出裕高¹⁾、中田佳宏^{1,2)}、松岡和弘¹⁾、
今橋真弓¹⁾、蜂谷敦子¹⁾、横幕能行¹⁾、
岩谷靖雅^{1,2)}

1) 国立病院機構名古屋医療センター

2) 名古屋大学大学院医学系研究科

WS2-5 PPT 領域内ドルテグラビル耐性関連変異のウイルス末端配列への影響

蜂谷敦子¹⁾、久保田舞¹⁾、大出裕高¹⁾、
山森玲奈²⁾、田中靖人²⁾、重見 麗¹⁾、
岡崎玲子¹⁾、松田昌和¹⁾、今橋真弓¹⁾、
Karen A. Kirby³⁾、
Stefan G. Sarafianos³⁾、横幕能行¹⁾、
岩谷靖雅¹⁾

1) (独) 国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター

2) 名古屋市立大学 医学研究科 ウイルス学分野

3) Laboratory of Biochemical Pharmacology, Department of Pediatrics, Emory University School of Medicine